

紫外線カットフィルムの効果確認



①試験品(CTFXUV)8.2撮影



②試験品(CTFXUV)8.2撮影



③試験品(CTFXUV)8.2撮影



④試験品(CTFXUV)8.2撮影



⑤現行品(スカイエイト)8.2撮影



⑥現行品(スカイエイト)8.2撮影

試験目的

紫外線カットフィルムの効果確認

試験作物 及び品種

ミニトマト(アイコ)

試験資材 及び数量(規格)

クリンテートFXUV(0.1mm×860cm×48m)

慣行資材

スカイエイト(0.1mm×860cm×48m)

栽培方法

播種日
慣行区:5月2日
試験区:5月2日

収穫日
慣行区:6月上旬
試験区:10月中旬

【栽植密度】
畝幅:45cm
株間:60cm×4条

資材使用期間

2年前～(通年展張)
3月中旬

試験区面積

280㎡

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

問題なかった。展張作業は農じより軽いため作業性は良い。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

- ・試験区において、生育軟弱徒長や収量減が見られなかった。
- ・試験区の草丈が慣行区よりも若干低かったが、開花段数は試験区、慣行区ともに10段であった。
- ・収量においては同等であった。(裂果も同等)

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】:アザミウマ類の発生量は激減した。試験区内での作業は、暑さの体感が和らぐと感じられた。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

- ・メリット:台風などの強風に強い。
- ・デメリット:熱と擦れに弱い。

(5)保温効果について

問題なし。

(6)雑草・病害虫の発生について

- ・試験区・慣行区は、アザミウマ類に対する殺虫剤散布を行っている。
- ・アザミウマ類の発生量が、格段に試験区の方が少なかった。昨年に、ホリバーを使用してみたが、試験区は慣行区の7.5%程であった。(試験区79頭に対し、慣行区1,048頭:H25普及センター調べ)

モニター感想

昨年から紫外線カットフィルム「クリンテートグロームスター」を使用しているが、害虫の発生が激減したため、非常に効果があると感じている。また、葉カビの進行が慣行よりも遅かった。病害の抑制効果も確認できた。

紫外線カットフィルムによって品質・収量の向上が実現できるため良い資材と感じている。引き続き効果を確認していきたい。

JA担当者の感想(物流課 牧課長補佐)

紫外線カットフィルムについて、以前から害虫発生抑制効果は聞いていたが東川町内での普及は進んでいなかった。今回の試験は天井のみの展張だったがアイコへの生育格差はなく害虫の発生を大きく減らすことができた。病害についても発生が遅くその後の進行が遅いことが確認された。このことから着果数は差異なかったが秀品率が向上し出荷ケースが増加した。一般農POと比較して価格差はあるが出荷量の増加、防除回数の減少など所得の向上につながることから紫外線カットフィルムの効果は高いと評価できる。

今後の使用について

継続して使用したい。
今回の試験により効果が確認できたことからトマトのほか、ピーマン等の品目にも普及拡大を図っていきたいと考えている。